

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成19年10月18日(2007.10.18)

【公表番号】特表2007-520214(P2007-520214A)

【公表日】平成19年7月26日(2007.7.26)

【年通号数】公開・登録公報2007-028

【出願番号】特願2006-547195(P2006-547195)

【国際特許分類】

|         |        |           |
|---------|--------|-----------|
| C 1 2 N | 7/00   | (2006.01) |
| C 1 2 N | 15/09  | (2006.01) |
| A 6 1 K | 39/145 | (2006.01) |
| A 6 1 K | 39/00  | (2006.01) |
| A 6 1 P | 31/16  | (2006.01) |

【F I】

|         |        |       |
|---------|--------|-------|
| C 1 2 N | 7/00   | Z N A |
| C 1 2 N | 15/00  | A     |
| A 6 1 K | 39/145 |       |
| A 6 1 K | 39/00  | B     |
| A 6 1 K | 39/00  | G     |
| A 6 1 P | 31/16  |       |

【手続補正書】

【提出日】平成19年8月29日(2007.8.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

インフルエンザウイルスの回収方法であって、該方法は

(i) リボ核タンパク質複合体を形成でき、ヘルパーウイルスの非存在下でウイルス粒子を組み立てることができるように、動物細胞内にてゲノムまたはアンチゲノムvRNAセグメント、核タンパク質、およびRNA依存性ポリメラーゼの発現を指令するポリヌクレオチドベクターを用いて前記動物細胞にエレクトロポレーションすること、  
 (ii) 該エレクトロポレーションした動物細胞を別の細胞型と、ウイルス複製が許容される条件下で共培養すること、および  
 (iii) インフルエンザウイルスを回収すること

を含み、

その回収効率が少なくとも90%である

前記方法。

【請求項2】

前記動物細胞がVero細胞である、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記動物細胞がSF Vero細胞である、請求項1に記載の方法。

【請求項4】

前記別の細胞型がCEK細胞である、請求項1に記載の方法。

【請求項5】

前記インフルエンザウイルスがA型インフルエンザウイルスである、請求項1に記載の

方法。

【請求項 6】

前記インフルエンザウイルスがB型インフルエンザウイルスである、請求項1に記載の方法。

【請求項 7】

前記インフルエンザウイルスが好冷ウイルスである、請求項1に記載の方法。

【請求項 8】

前記インフルエンザウイルスが弱毒ウイルスである、請求項1に記載の方法。

【請求項 9】

前記ベクターが一組のプラスミドであり、該一組のプラスミドにおける異なるプラスミドの数が8個である、請求項1に記載の方法。

【請求項 10】

前記ベクターが一組のプラスミドであり、該一組のプラスミドにおける異なるプラスミドの数が12個である、請求項1に記載の方法。

【請求項 11】

請求項1に記載の方法によって作製されるインフルエンザウイルス。

【請求項 12】

前記ベクターがA/PR/8/34に由来する少なくとも一のvRNAセグメントの発現を指令する、請求項1に記載の方法。

【請求項 13】

前記ベクターがMDV-Aに由来する少なくとも一のvRNAセグメントの発現を指令する、請求項1に記載の方法。

【請求項 14】

請求項1に記載のインフルエンザウイルスを含むワクチン組成物。

【請求項 15】

動物細胞がMDCK細胞である、請求項1に記載の方法。

【請求項 16】

前記別の細胞型がMDCK細胞である、請求項2に記載の方法。

【請求項 17】

前記別の細胞型がMDCK細胞である、請求項3に記載の方法。

【請求項 18】

ベクターがMDV-Bに由来する少なくとも一のvRNAセグメントの発現を指令する、請求項1に記載の方法。

【請求項 19】

MDV-AがA/Ann Arbor/6/60である、請求項13に記載の方法。

【請求項 20】

MDV-BがB/Ann Arbor/1/66である、請求項18に記載の方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0054

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0054】

本発明の別の好ましい実施形態はインフルエンザウイルスの回収方法である。この方法において、(a)動物細胞に、この細胞内にてゲノムまたはアンチゲノムvRNAセグメント、および核タンパク質、およびRNA依存性ポリメラーゼを発現する細胞発現ベクターをエレクトロポレーションして、そしてリボ核タンパク質複合体を形成することができ、ウイルス粒子を(ヘルパーウイルスを用いてまたは用いることなく)組み立てることができる;そして(b)ウイルス粒子がパッケージされ、回収される上記細胞を培養する。